

平成 25 年度自治医科大学大学院看護学研究科 FD 活動のまとめ

1. FD 研究会の実施

1) 第 1 回大学院看護学研究科 FD 研究会

講演「修正版グラウンデッド・セオリーアプローチの活用」

木下康仁教授(立教大学)を講師に、修正版グラウンデッド・セオリーアプローチの分析手法、理論形成に関する視点、研究成果の実践への応用について、講義と演習および質疑応答を行った。

日程 平成 26 年 2 月 26 日(水) 13:00~16:00

会場 看護学部学習室

参加者 42 名

2) 第 2 回大学院看護学研究科 FD 研究会

討議「専門看護師教育課程における専門看護実習の取り組むべき課題と展望」

博士前期課程において直近 2 年間で開講された「専門看護実習」科目の担当教員による現状と課題について発表を行った。また、本学の理念に基づいた実習指導および指導方法、専門看護実習の評価、について討議を行った。

日程 平成 26 年 3 月 10 日(月) 9:00~11:30

会場 自治医科大学看護学部校舎 大教室Ⅲ

参加者 25 名

2. 研究科長と大学院生との懇談会

年 2 回、看護学部校舎内の学部長室において、講義・演習、研究指導、および学習環境について大学院生から意見を聞き、必要な対応を行った。

1) 第 1 回懇談会

(1) 日程 平成 25 年 9 月 27 日(金)17:30~18:20

(2) 参加者 計 14 名(休学者を除く出席率 70.1%)

内訳 前期課程 1 年次 6 名、2 年次 6 名

後期課程 1 年次 1 名、2 年次 1 名

(3) 得られた意見・要望

特別講義「国際学会における発表についての基礎を学ぶ」(1 回 2 日間)について、段階的かつ複数回実施することについて希望があり、研究指導については、「学生の個別の状況に対する配慮があり、躓いたときにも指導によって前進している実感があることなどの肯定的な意見があった。

学習環境については、研究室について、煙草臭に関する苦情、冷暖房機の機能の向上についての要望があった。また、修了生ネットワークを強化するために、学籍番号メールアドレスの修了後の継続使用について要望が出された。

(4) 要望に対する対応

① 学生の希望も踏まえて、次年度の特別講義の時期や回数を検討する。

② 研究室の煙草臭については、セキュリティの観点も踏まえて、早急に消臭と使用者の確認をして煙草臭はなくなり、セキュリティについても安全性を確認した。

- ③ 研究室に温度計を設置して冷暖房機の機能状況を確認したうえで、対応を検討する。
- ④ 学籍番号メールアドレスは医学部では継続使用していることを確認し、看護学研究科でも継続使用できるように調整する。

2) 第2回懇談会

- (1) 日程 平成26年3月3日(月) 17:00～18:00
- (2) 参加者 計5名(出席率 100.0%) 内訳:平成25年度博士前期課程修了予定者
- (3) 得られた意見・要望

講義・演習について特に意見はなかった。学習環境については、研究室の温度が低く寒いという意見があった一方で、学習環境調整担当の学生より、第1回懇談会后、改善されているという意見があった。また、国際交流事業としてのEAFONS (THE EAST ASIA FORUM IN NURSING SCHOLAR: 東アジア看護学研究フォーラム) への参加費の補助金支給者について増員の希望があった。

- (4) 要望に対する対応について

- ① 研究室の学習環境については、継続して経過を観察する。
- ② 3名枠のところ昨年度は3名、今年度は4名と、増員を検討するほど応募は多くないので、当面は3名枠のままとし、応募者が増えた場合には検討すると回答した。

3. 看護学研究科担当教員間の評価

- 1) 日程 平成26年1月25日(土)14:30～15:25
- 2) 場所 大教室II
- 3) 参加者 7名、参加率87.5%
(研究科長、研究科委員会幹事長、FD評価・実施委員長、研究指導教員4名)
- 4) 方法 研究指導のスキル向上のための方策について討議を行った。
- 5) 結果

学生の教育研究活動に係る経費の確保について、看護学部共同研究費への共同研究者としての参加の可能性、入学後の学修を円滑に進めるために、特に出願資格認定を受けた合格者に対する後期配当の共通科目の科目等履修(特に「地域調査法」等)、および看護学部の「研究セミナー」や「文献講読セミナー」の活用について、検討を進めることになった。

4. 科目責任者による授業改善の取り組み

1) 博士前期課程

(1) 共通科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
地域医療論	春山 早苗	最終回に受講生より授業に対する感想・意見を聞き、担当教員および非常勤講師からの意見もあわせて、次年度の授業改善に努めた。
看護管理・政策論	春山 早苗	科目責任者の授業日に受講生より授業に対する感想・意見を聞き、非常勤講師からの意見もあわせて、次年度の授業改善に努めた。
看護倫理	小原 泉	科目責任者が直接担当する授業の際に受講生の意見・感想を聞き、講義の理解度、演習課題の難易度や取り組み状況、有用性や満足度を確認して授業改善に努めた。非常勤講師と適宜情報交換を行い、教授方法を工夫した。これまでの学修課題の達成状況を踏まえ、38単位移行後の授業構成を見直した。
看護実践研究論	半澤 節子	授業最終回に、受講生から授業全体に対する感想を聞き、次年度の授業改善に努めた。新たな要望はなく、授業内容に対して、概ね高い評価を得ることができた。また、授業の内容、進行状況、受講生の背景や課題への取り組み状況については、適宜担当教員間で引き継ぎ、情報交換を行い、授業改善につなげた。
看護継続教育論	本田 芳香	授業実施中、適宜授業内容や運用方法について受講生からの意見や要望を聞き、適宜授業改善に反映させ、科目担当者から、授業終了後に授業全般に関する意見を聞き、38単位移行後の授業内容および運用方法について検討した。
コンサルテーション論	永井 優子	課題レポートやプレゼンテーションにおける受講生の反応等を検討し、広瀬非常勤講師とともに、演習部分について振り返りを行い、38単位移行後の授業内容と方法等について検討した。
地域調査法	渡邊 亮一	最終回の授業後に、受講生より授業に対する感想・意見・要望等を聴取し、また科目担当者からも授業終了後に意見を聞き、次年度の授業改善に努めた。
フィジカル アセスメント特論	本田 芳香	授業最終回に、受講生から意見や要望を聞き、科目担当者からは授業終了後に授業目標や運用について意見を聞き、次年度の授業改善に努めた。

(2) 専門科目

地域看護管理学領域の老年看護管理学科目群および看護技術開発学領域は開講されなかった。

領域	主科目群	科目責任者	授業改善の取り組み
母子看護学	小児看護学	横山 由美	各科目の最終講義時に学生の感想や意見、学びについての課題と学科目群の講義終了後に担当教員および非常勤講師からの学生の学びの評価や授業の改善点などを合わせて次年度の授業改善に努めた。
	母性看護学	成田 伸 野々山 未希子	受講生の各科目・単元の受講時の様子、科目担当者や非常勤講師からの意見を検討するとともに、周産期医療状況の急速な変化について受講生や修了生と話し合い、受講生の学習が時代に適合し、より効果的なように、授業内容の追加や改善に努めた。
健康危機看護学	クリティカルケア看護学	中村 美鈴	授業の最終回に、受講生から授業の内容や進め方について意見や要望を聞き、適宜、授業に反映させた。また、科目担当者から授業終了後に授業目標や運用について意見を確認し、次年度以降の授業改善に努めた。さらに、受講生とともに、講義内容の理解を深めるためのより良い教育方法を検討した。
	精神看護学	半澤 節子	学修目標を踏まえて、受講生の課題への取り組み状況、理解状況を適宜評価し、担当教員間で情報を共有し授業改善に努めた。受講生の大学院での学習と職業生活の両立ができるように課題についても適宜相談に応じ、授業改善に努めた。後学期科目は開講していない。
がん看護学	がん看護学	本田 芳香	各学科目終了後、授業目標や内容の達成状況について、受講生の意見や要望を聞き、次年度以後の授業改善に努めた。また担当教員や非常勤講師からの意見を聞き、38 単位移行後の授業内容や運用方法を検討した。
地域看護管理学	地域看護管理学	春山 早苗	各科目の学習目標の達成状況および学生の感想・意見に、担当教員および非常勤講師からの意見もあわせて、次年度の授業改善に努めた。修了式後にも受講生の感想・意見を聞き、研究指導等に反映しているとともに、後輩へのアドバイスを聞き、次年度入学生や在學生に伝えている。

2) 博士後期課程

(1) 専門関連科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
異文化精神医療論	大塚 公一郎	未開講
地域保健医療研究論	渡邊 亮一	最終回の授業終了後に、受講生より授業に対する感想・意見を聴取した。また、受講生の課題の取り組み状況、学習目標の達成状況については、担当教員間で意見交換を行った。これらの結果を踏まえて次年度の授業改善に努める。

(2) 専門科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
広域実践看護学特論Ⅰ ヘルスケアシステム研究法	春山 早苗	受講生の課題への取り組み状況および学習目標の達成状況を踏まえて、担当教員間で話し合い、次年度の授業改善に努めた。
広域実践看護学特論Ⅱ クリニカルケア研究法		未開講
広域実践看護学特論Ⅲ メンタルヘルス研究法	半澤 節子	受講生の課題への取り組み状況、学習目標の達成状況を踏まえて、担当教員間で話し合いを行った上で、次年度の授業改善に向けた課題を検討した。
広域実践看護学特論Ⅳ 看護教育・管理研究法		未開講
広域実践看護学演習 〈ヘルスケアシステム〉 〈メンタルヘルスケア〉	半澤 節子	最終回に受講生から授業に対する感想を聞き、次年度の授業改善に努めた。また、受講生の課題への取り組み状況及び学習目標の達成状況について、適宜担当教員相互に情報交換を行い、次年度の授業改善につなげた。
広域実践看護学特別研究	春山 早苗	個別指導および合同研究セミナーから受講生の進捗状況を把握し、副研究指導教員からの意見も得て、研究指導に反映させている。
	成田 伸	個別指導および合同研究セミナーから受講生の進捗状況を把握し、副研究指導教員からの意見も得て、研究指導に反映させている。
	永井 優子	個別指導および合同研究セミナーから受講生の進捗状況を把握し、副研究指導教員からの意見も得て、研究指導に反映させている。

5. 意見箱について

投稿された意見はなかった。

6. その他

博士前期課程学生を対象とした研究構想発表会(第3回合同研究セミナー)について

第3回合同研究セミナーは、看護学研究科博士前期課程の学生(主として1年次)が、原則として研究倫理審査の申請をする前に、研究構想について発表し、領域を超えた様々な意見を得て、研究を進めるうえで自己の課題を明らかにすることを目的として実施している課外活動で、運営と実施は学生に委ねられている。

平成25年度は平成25年11月8日に実施し、参加学生は14名、うち発表者は9名であった。終了後、博士前期課程の学生が主体的にアンケート(対象は参加した学生および発表者)を実施し、その結果を踏まえて、学生は運営マニュアルの作成等を含めた次年度に向けた課題を検討している。この報告を受けて、看護学研究科委員会において効果的な実施について検討した。

〈平成26年度に向けた改善課題〉

- 1) 博士後期課程の学生の発表を同日に実施しているため、前期課程および後期課程の両学生が発表することができる十分な時間を確保する。
- 2) 年度当初に出席確認をしているが、配付資料が不足することがあるため、看護学務課が本セミナーの出席を開催の前に確認し、当日用に名簿を作成して準備する。運営担当の学生が、その名簿により出席を確認する。